

2025 年 2 月 19 日

病院倫理委員会で承認された治療法

当院の病院倫理委員会で下記の医療が承認されました。対象者となられる方から同意をいただくことに代えて、病院ホームページに情報を公開することにより投薬を実施しております。この内容に関して同意できない場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。なお、本件について同意できない場合でも診療において不利益を被ることはありません。

記

実施内容	アナフィラキシー等に伴う急性低血圧またはショック時の第一選択薬アドレナリン（ボスミン）不応患者に対する、グルカゴンの適応外使用
実施責任者	久留米大学病院 病院長 野村 政壽
対象者	アナフィラキシー等に伴う急性低血圧またはショックを起こした患者で、アドレナリン（ボスミン）に反応しない患者、特にβブロッカーが投与されている患者
承認日	2025 年 2 月 19 日
対象期間	承認日から永続的
目的・意義	アナフィラキシー等に伴う急性低血圧またはショックを起こした患者で、アドレナリン（ボスミン）に反応しない患者(特にβブロッカーが投与されている場合など)に対して、当院ではグルカゴンを投与します。 アナフィラキシーショックは医療上エマージェンシー（緊急事態）のひとつであり、迅速な対応が求められます。発症時はアドレナリンの筋肉注射が第一選択となりますが、アドレナリン不応(効果不十分)の患者も存在し、不応の原因としてβブロッカーを投与されていることがあります。日本アレルギー学会が監修する「アナフィラキシーガイドライン 2022」や、厚生労働省発行の重篤副作用疾患別対応マニュアル「アナフィラキシー」には、アドレナリン不応患者に対する代替薬としてグルカゴンが推奨されていますが、急性低血圧やショック時の補助治療としての使用は承認されていません。 当院ではアドレナリンに反応しない患者に対してのみ、以上の理由からグルカゴンの使用を行うことがあります。
想定される不利益と対策	副作用としては重大なものとしてショック（頻度不明）、低血糖症状（0.1%未満）があり、その他の副作用としては嘔気、嘔吐、白血球数増加、白血球分画の変動、血糖値上昇、頭痛、倦怠感等が報告されています。これらの副作用には十分に注意を行い、もし副作用が起こった場合は速やかに対応します。
問い合わせ先	久留米大学病院 各診療科担当医師 電話 0942-35-3311（代表）

以上